

上越地域の川と道を守ります

KAWA KOKU

令和
8年度

事業概要



国土交通省

高田かわこく
河川国道事務所

上越地域の河川と災害

関川・姫川の概要

関川

関川流域は、急峻な山地部と平坦な平野部から成っており、川の流れるも極端に変化します。下流部では、かつての氾濫原であった低い土地も盛んに開発され、宅地や事業所として利用が進んでおり、河川の氾濫や内水による浸水等の被害を受けやすい状況になっています。



関川・保倉川合流部

関川とその支川の保倉川では、過去からのたび重なる洪水被害を受けて、これまでに川幅を広げるなどの改修が行われてきましたが、依然として流下能力が不足しており、特に安全度の低い保倉川では放水路の整備等が必要とされています。

関川の流域の概要

流路延長	64km
流域面積	1,140km ²
流域市町村	新潟県上越市、妙高市、長野県長野市、飯山市、信濃町（4市1町）
流域内人口	約21万人
支川数	76

関川・過去の主な洪水と洪水被害

発生日月	発生原因	被害状況
昭和56年 8月23日	台風15号	床上浸水512戸、床下浸水538戸、浸水面積443ha
昭和57年 9月13日	台風18号	全半壊5戸、床上浸水2,738戸、床下浸水4,472戸、浸水面積717ha
昭和60年 7月 8日	梅雨前線	床上浸水302戸、床下浸水2,171戸、浸水面積2,699ha
平成 7年 7月11日	梅雨前線	行方不明者1名、全半壊70戸、床上浸水2,167戸、床下浸水2,620戸、浸水面積2,217ha
令和 元年10月11日	台風19号	全半壊2戸、床上浸水28戸、床下浸水61戸、浸水面積50ha

出典：水害統計（国土交通省水管理・国土保全局監修）

関川・姫川と水害

上越地域を流れる関川、姫川は幹川流路延長がともに約60kmで、全国の一級河川の中でみると比較的延長の短い河川ですが、標高2kmを超える山々から人々の暮らす平地までを一気に流れ下る河川です。このため上流部で強い雨が降ると短時間のうちに洪水のピークが下流に達し大きな被害を及ぼし、特に30年前に発生した「平成7年7月出水」では甚大な被害が発生しました。

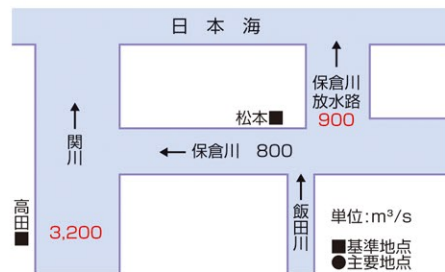
河川整備基本方針及び河川整備計画

関川

関川水系の河川整備の基本となる「関川水系河川整備基本方針」を平成19年3月に策定し、当面の具体的な整備内容を定めた「関川水系河川整備計画」を平成21年3月に策定しました。

気候変動による降雨量の増加等を踏まえ、「関川水系河川整備基本方針」を令和5年3月に、「関川水系河川整備計画」を令和7年3月に、それぞれ変更しました。変更後の河川整備計画では、保倉川放水路のルート位置づけました。

関川水系河川整備計画で定めた目標流量



保倉川放水路のルート



姫川

姫川流域は、西側に北アルプス北部の白馬岳や朝日岳等がそびえ、大半を急峻な山地が占めています。また、流域のほぼ中央にはフォッサマグナの西の縁にあたる大断層「糸魚川・静岡構造線」が貫通しており、脆く崩れやすい地質から大規模な崩壊も頻発しています。このため姫川では土砂の流出が激しく、過去から氾濫を繰り返してきました。



姫川上流地区

平成7年7月出水では、強い流れによる洗掘により護岸が破壊され、堤防の侵食が一気に進んで決壊（破堤）に至るといった被害が発生しました。これは「侵食破堤」といわれ、護岸基礎部分の補強対策が求められています。

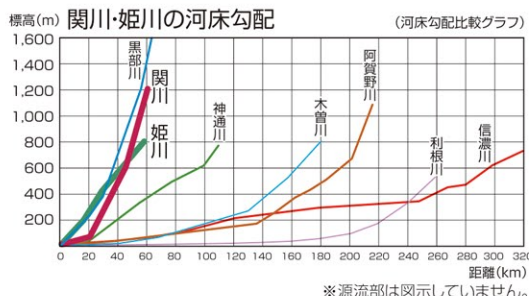
姫川の流域の概要

流路延長	60km
流域面積	722km ²
流域市町村	新潟県糸魚川市、長野県大町市、白馬村、小谷村（2市2村）
流域内人口	約1万8千人
支川数	47

姫川・過去の主な洪水と洪水被害

発生日月	発生原因	被害状況
昭和44年 8月 9日	前線性集中豪雨	床上浸水120戸、床下浸水205戸、農業被害面積404ha
平成 7年 7月11日	梅雨前線	全半壊62戸、床上浸水66戸、床下浸水320戸、農業被害面積103ha

出典：水害統計（国土交通省水管理・国土保全局監修）

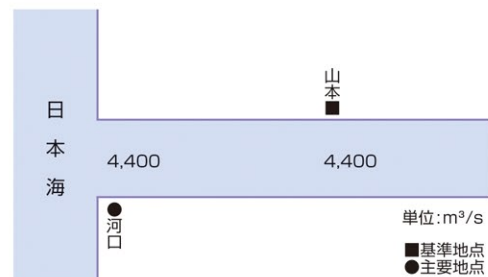


※源流部は図示していません。

姫川

姫川水系の河川整備の基本となる「姫川水系河川整備基本方針」を平成20年6月に策定し、当面の具体的な整備内容を定めた「姫川水系河川整備計画」を平成27年3月に策定しました。

姫川水系河川整備計画で定めた目標流量



安全で親しみの持てる川を目指して

治水対策の推進

関川の治水対策

関川・保倉川では頻発する水害に対して緊急的、継続的な河川改修により治水安全度の向上を図ってきました。

関川においては、春日・藤野新田地区にて河道掘削を行い流下能力の向上を目指します。一方で、保倉川の治水安全度は依然として低い状況にあることから、抜本的な治水対策として放水路整備を検討・推進していきます。



春日・藤野新田地区の河道掘削

姫川の治水対策

姫川は全国屈指の急流河川であり、洪水による河床の変動や偏流が激しく、局所的な洗掘などにより堤防の決壊に至る危険性があります。

近年の洪水により侵食・洗掘をうけている糸魚川市上刈地区において、護岸の整備を行います。



上刈地区の護岸整備

河川の維持管理

日頃より河川の堤防や護岸などの巡視を行い、施設の異状や違法行為・迷惑行為などの状況を早期に把握し、速やかにその機能の確保や回復のための対応に努めています。

また、樋管等の河川管理施設や応急資材等の確認・点検を実施し、出水など緊急時に備えています。



河川環境の整備・保全・環境学習

関係機関と連携・協力しながら、地域の方々に親しまれる水辺空間の創出を進めています。

また、小学校や地域の皆さんが行う河川とのふれあいや、環境学習をサポートします。水辺の動植物や水質調査を行い、河川環境の保全・改善を目指します。



関川・姫川流域治水プロジェクト

関川・姫川流域治水協議会、流域治水プロジェクト

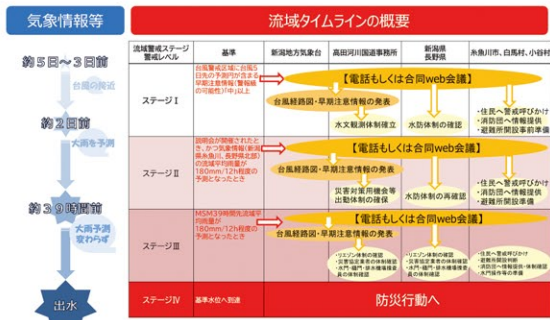
令和元年東日本台風をはじめ、平成30年7月豪雨や平成29年九州北部豪雨など、近年激甚な水害が頻発しており、さらに、今後、気候変動による降雨量の増大や水害の激甚化・頻発化が予測されています。このような水災害リスクの増大に備え、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」への転換を進めるため、河川流域全体のあらゆる関係者が協働する「関川・姫川流域治水協議会」が発足しました。

本協議会では、河川整備計画に基づく河川整備や大規模氾濫減災協議会の取組方針に基づく避難や水防等の取組を十分に共有するとともに、被害の防止・軽減に資する流域における対策を総合的に検討の上、密接な連携体制を構築するための協議等を行っていきます。

そして、協議会において流域全体で緊急的に実施すべき流域治水対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として令和3年3月に策定・公表しました。その後、気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方針を反映した「流域治水プロジェクト2.0」を令和6年3月に更新し、流域治水を計画的に推進していきます。

関川・姫川流域タイムライン

河川流域での連携強化を図ることを目的に、これまで各関係機関が個別に策定してきた避難情報(勧告)着目型タイムラインを統合し、かつ、災害発生の可能性が生じた段階まで範囲を前倒した「関川・姫川流域タイムライン」を、令和6年3月から本運用を始めます。



7.11水害から30年シンポジウム

関川・姫川流域に甚大な被害を及ぼした「7.11水害」から約30年が経過し、この水害の記憶は薄れつつありますが、水災害による被害は全国各地で激甚化・頻発化しています。

水害が身近に起こりうる出来事として捉え、「流域治水」の考え方からも私たちに何ができるのか考え、地域防災力を高める貴重な機会として、令和7年11月に「7.11水害から30年シンポジウム」を開催しました。



パネルディスカッションの様子

社会全体で洪水に備える

関川・姫川大規模氾濫に関する減災対策協議会

平成27年9月関東・東北豪雨による大規模な浸水被害が発生したことを踏まえ、関川・姫川流域においても、同様の氾濫が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」を概ね5年を目処に再構築するため発足しました。また、水防法の改正を受け、平成30年4月に法定協議会への格上げを行いました。

協議会では、高田河川国道事務所、新潟県、関係市町村等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に検討・推進していきます。

上越地域と道路

高田かわこく管内の道路整備

地域道路ネットワークの形成

上越地域には、物流拠点となる重要港湾「直江津港」をはじめ、「高田城址公園」などの観光施設や道の駅「あらい」のように、防災拠点となる重要施設が集積しています。

現在、国・県・市が連携して進める「上越魚沼地域振興快速道路」や、「上新バイパスの4車線化事業」によって道路ネットワークを整備・強化することで、人や物の移動がより効率化されます。

これにより、民間投資の促進や観光交流の拡大が見込まれ、さらには人口や雇用の増加にもつながり、地域経済の発展が期待されます。



都市部の渋滞緩和

高田かわこく管内の直轄国道では、年間渋滞損失時間が534万人時間／年にも達しています。

この課題に対応するため、国道8号直江津バイパスの山側3車線化工事の推進、糸魚川東バイパスの延伸、国道18号上新バイパス4車線化を進めることで、朝夕のラッシュ時などの渋滞緩和が見込まれます。

さらに、これらのバイパス整備により自動車の平均速度が向上することで、CO₂排出量の削減といった環境面での効果も期待されます。



部分開通(H31.3)した上越三和道路



直江津バイパス(下り線)

老朽化による損傷が著しい橋梁の架け替え

国道18号妙高大橋では、老朽化によりコンクリート橋桁内部のPCケーブルが腐食・破断するなどの損傷が確認され、さらにその劣化が進行していることが明らかになりました。

このため、修繕による復旧が困難と判断され、平成24年度に架け替え工事に着手し、令和3年8月に新しい橋が完成して交通が切り替えられました。

現在は旧橋の撤去工事を進めています。妙高大橋のように損傷、劣化が進行している大規模橋梁の撤去は全国的にも事例が少なく、安全に取り壊すために高度な技術検討が求められました。

企画立案から約3年間をかけて、令和7年に橋桁の撤去が完了しました。今後、橋脚の撤去を進めていきます。



旧橋の撤去状況



完成した妙高大橋

塩害による損傷が著しい橋梁の恒久対策

国道8号高田かわこく管内の上越市から糸魚川市までの約74km区間は、日本海の荒波を直接受ける厳しい塩害環境にあり、コンクリート橋桁内部のPCケーブルや鋼材が腐食・破断するなどの損傷が確認されています。

このうち、特に損傷が大きく、修繕による復旧が困難と判断された9橋では、橋梁の架け替えなど恒久的な対策を進めています。

これまでに、6橋(両鬼橋、能生大橋、筒石橋、青海跨線橋、歌高架橋、弁天大橋)で対策が完了し、現在、3橋(有間川橋、青海川橋、境橋)の工事を進めています。



主桁の損傷状況(境橋)



架替工事が進む青海川橋

道の駅の役割と機能強化

高田かわこく管内には7か所の道の駅があり、休憩施設としての役割に加えて、人と地域をつなぐ交流拠点としての魅力を発揮しています。各駅には駐車場や道路・地域情報の案内施設をはじめ、地元の特産品販売やレストランなど、個性豊かな施設・サービスが揃っています。

平成27年1月には道の駅「あらい」、平成31年1月には道の駅「能生」が重点道の駅に選定されました。

近年は、災害時における防災拠点としての機能強化にも取り組んでいます。令和3年6月に道の駅「あらい」が防災道の駅に選定され、令和6年1月の能登半島地震および同年9月の能登半島豪雨災害の際には、被災地への支援物資輸送拠点として重要な役割を果たしました。



安全で快適な道路整備

災害に強い道路を目指して

北陸の大動脈の確保

親不知の交通規制の減少を目指して

国道8号は、新潟市から京都に至る主要幹線道路であり、北陸自動車道と相互に補完しあい広域的な交通網を形成するとともに、地域の産業経済、日常生活を支える重要な役割も担っています。

しかし、親不知地区は古くから“交通の難所”で、現在も連続雨量が140mm以上になると通行止めとなります。

高田かわこくでは、毎年点検を行うとともに必要な対策を進めてきています。引き続き必要な対策を行い、北陸の大動脈・国道8号の信頼性を高めていきます。

橋梁の耐震対策

高田かわこくでは、地震時の落橋等の甚大な被害を防止し、第一次緊急輸送道路としての機能を確保するために、橋脚の補強、落橋防止システム設置等の整備を進めていきます。



この区間については、大雨等の異常気象時には、土砂崩壊等の危険がありますので、連続雨量が基準値を超えた場合、事前に通行止め等の通行規制を行います。



橋脚の補強(国道8号 姫川大橋)

日本海の荒波に負けない道路のために

橋梁・洞門・海岸擁壁の補修

日本海沿岸に沿った国道8号は、冬期波浪の影響など厳しい環境下において、特に塩害による橋梁・洞門・海岸擁壁の老朽化が進んでいます。

また、台風や冬期の波浪により、波が道路まで達することがあります。高田かわこくでは、安全・安心な道路を確保するため、橋梁・洞門・海岸擁壁などの補修や消波ブロックの設置などを進めています。



海岸擁壁補修(国道8号 糸魚川市市振地先)

日常の安全管理

道路の安全・安心は、日々の積み重ねから

厳しい自然環境の中にある道路を守るため、日頃から安全・安心を確保するための様々な点検作業を行っています。



橋梁点検(国道18号 妙高大橋)

雪国の冬の安全・快適のために

道路除雪

わが国有数の豪雪地帯である上越地域の冬期道路交通を確保するため、地域の大動脈である国道8号に4箇所、国道18号に3箇所の除雪ステーションを設け、昼夜を問わず迅速な除雪作業を行っています。



除雪車による除雪状況(国道18号)

人にも環境にもやさしい道づくり

事故ゼロプラン

安全・安心な道路環境を実現するために

道路利用者の声や事故データに基づき、対策箇所を選定し、重点的に事故対策を進めています。



国道8号名立小泊自歩道の整備

無電柱化の推進

美しい景観と災害に強いまちづくりのために

安全で快適な通行空間の確保や、まちの景観の向上、都市災害の防止、情報通信ネットワークの信頼性向上を目的に、電柱及び電線を地中化するなどの整備を実施しています。



国道8号寺島電線共同溝の整備

令和6年能登半島地震

国道8号上越市茶屋ヶ原地先 土砂崩落の復旧作業について

○新潟県上越市では震度5強を観測し、国道8号上越市茶屋ヶ原地先にて土砂崩落が発生、地震後、通行止めを実施しました。

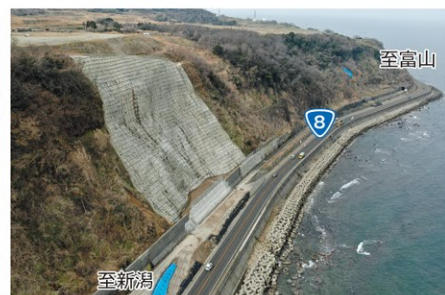
○令和6年1月3日(水)の工事着手から24日間(24時間体制)で応急復旧作業が完了し、27日10時に解除しました。



令和6年1月被災状況



令和6年1月応急復旧完了



令和6年3月現在

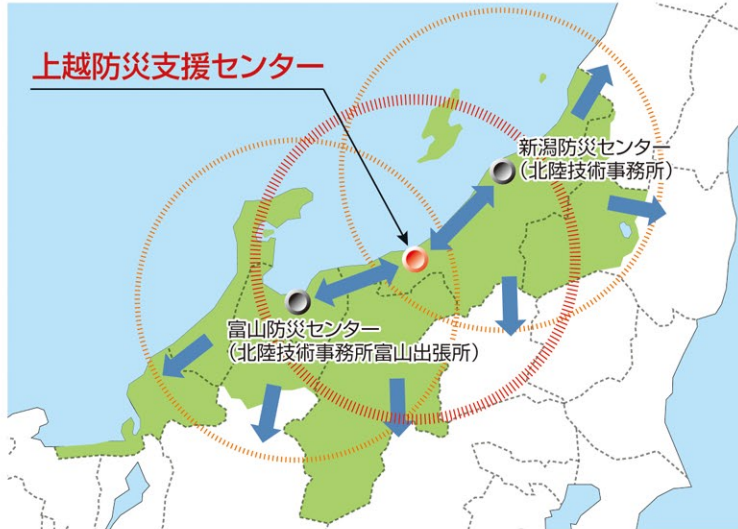
地域で取り組む災害対策

地域防災の活動拠点として

高田かわこくには、地域の災害に対し支援を行うための排水ポンプ車・照明車などの機械や、衛星画像伝送装置等の通信機器を配備し、地域の安全を守るため、いつでも出動できるように体制を整えています。

また、広域防災拠点となる「上越防災支援センター」を置き、より広域的な災害対応を行うための体制も整えています。

近年では、平成16年の新潟・福島豪雨水害、新潟県中越地震、以後の中越沖地震、岩手宮城内陸地震、東日本大震災、上越市板倉地区地すべり災害、長野県神城断層地震、糸魚川市大規模火災、令和元年東日本台風など大規模災害等の復旧支援活動に各種機械が出動しています。



災害対策用機械

上越市内冠水時での活動状況



排水ポンプ車による内水排除

地域消防との連携



木流し訓練

主な災害対策用機械・通信機器一覧表

災害対策機械		災害対策用通信機器類	
機械名	数量	通信機器名	数量
対策本部車(拡幅型)	1台	衛星小型画像伝送装置(Ku-SATII)	1台
衛星通信車(移動衛星通信局)	1台	公共BB(ブロードバンド)移动通信システム	1組
排水ポンプ車(60m ³ /min高揚程型)	3台	i-RAS(5GHz帯無線アクセスシステム)	3組
照明車(2kW×6灯・ブーム式)	1台	超高感度カメラ	2台
照明車(2kW×6灯・2柱式)	2台	衛星携帯電話(車載型)	7台
待機支援車(支援用バス型)	1台	可搬発電機(72時間対応)	2台
遠隔操縦対応型バックホウ(1.4m ³ 級)	1台	モバイル伝送カメラ	2台
応急組立橋(7×50m・歩道付)	1橋	衛星小型画像伝送装置(Ku-SATII)	1台
排水ポンプ車(30m ³ /min)	5台	i-RAS(5GHz帯無線アクセスシステム)	1組
照明車(LED1.3kW×6灯・2柱式)	5台	超高感度カメラ	2台
		衛星携帯電話(車載型)	1台
		衛星携帯電話(可搬型)	5台
		可搬発電機(72時間対応)	1台
		モバイル伝送カメラ	2台

■ 広域対応用機械、機器類
■ 地域対応用機械、機器類
令和8年4月現在

緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)

国土交通省緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)は、大規模自然災害が発生、又は発生するおそれがある場合に、被災地方公共団体等に対し、円滑かつ迅速に災害対応の支援を実施することを目的として、平成20年度に創設されました。

全国の地方整備局と事務所を中心に17,887名(令和7年4月)の隊員が任命されており、ゲリラ豪雨のような局地的な災害に対しては近隣の事務所や管内の地方整備局から、また、東日本大震災のような広域的な災害に対しては全国の地方整備局から現地へ隊員が参集します。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、全国から被災状況調査や災害対策機械による応急対応等の技術支援を実施し、延べ25,967人・日を派遣しました。また、同年9月に発生した豪雨災害においても、延べ3,448人・日を派遣しました。

東日本大震災(H23.3)や伊豆大島土石流災害(H25.10)、熊本地震(H28.4)、台風10号災害(H28.9)、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震(H30.9)、令和元年東日本台風(R1.10)、令和6年能登半島地震(R6.1)などの災害において、高田かわこくからも隊員を派遣し、被災状況調査班等の活動を実施しています。



平成26年2月山梨県・群馬県・埼玉県豪雪山梨県での孤立解消活動状況



令和6年能登半島地震での輪島市道路啓開作業状況



令和6年9月豪雨災害での輪島市被災調査状況

高田かわこくの情報発信

地域に密着した「かわ」や「みち」の情報をお届けします。

高田かわこくではホームページにて、関川、姫川、国道8号、18号等のライブカメラ映像や事務所事業の紹介、緊急時の防災情報等を提供しています。皆さん、是非アクセスして下さい。



事務所公式Xで、事業情報や緊急情報などの最新情報を見ることができます。

緊急情報はここに表示されます。

ライブカメラでリアルタイムな映像を見ることができます。



川のライブカメラ



道のライブカメラ

新たな防災気象情報の運用について ～令和8年の大雨時期から防災気象情報が生まれ変わります～

令和8年の大雨時期から防災気象情報の名称や情報体系が変更となります。

新たな防災気象情報では、避難行動に対応した5段階の警戒レベルに整合させ、大雨などの災害発生の危険度の高まりに応じて各情報を発表します。

これに伴い、河川氾濫の特別警報を新たに開始することや警戒レベル4相当情報として危険警報を運用することなど、現行の大雨警報・注意報などの気象庁が発表する防災気象情報が大きく変わります。

新たな情報の具体的内容や変更点等については、以下の特設ページにて掲載しております。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/keiho-update2026/index.html>

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	河川氾濫 1級河川などの 大河川の氾濫	大雨 低地の洪水や 大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地の崩壊や 土石流	高潮 海水面上昇や 波の打上げによる浸水	(警戒レベルごとの) 住民が とるべき行動
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保!
<警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！>					
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認(避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど)
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

全国の河川情報を提供「川の防災情報」

「川の防災情報」では、インターネットでリアルタイムの雨量や河川水位、河川カメラ画像などの情報を確認することができます。

スマートフォン版の「川の防災情報」では、位置情報を取得することで、今居る場所の雨の様子や近くの川の状況をすぐに知ることができます。

川の防災情報

<https://www.river.go.jp/>



道路緊急ダイヤル



道路の異状(路面の汚れ、落下物、路面の穴ほこ等)をみつけたら、上記番号までご一報下さい。

LINEからも通報できます。



LINE2次元コード

道の相談室



「道の相談室」では、新潟県、富山県、石川県を対象地域として、道路に関する疑問・質問、ご意見をお待ちしています。

- TEL 025-280-8880 ●FAX 025-280-8938
- 電子メール hr-michi@hrr.mlit.go.jp
- 受付時間/ 平日 9:30～12:00、13:00～17:00 (FAX、電子メールは24時間受付)

※「高田かわこく」は高田河川国道事務所の呼称です。

事務所の概要と沿革

Table with 2 columns: Year (年) and Project/Event (事業沿革). Lists major infrastructure projects from 1933 to 2011, including highway improvements and disaster response.

Table with 2 columns: Year (年) and Project/Event (事業沿革). Lists major infrastructure projects from 1913 to 2017, including highway improvements and disaster response.

黒は事務所沿革、青は河川事業、緑は道路事業を示します。

組織と業務内容 令和8年4月現在

Table showing organizational structure and business content. Columns include Department Name (課名), Position Name (係名), Phone Number (電話番号), FAX, and Business Content (業務内容).

Table showing river-related business content. Columns include Department Name (課名), Position Name (係名), Phone Number (電話番号), FAX, and Business Content (業務内容).

Table showing road-related business content. Columns include Department Name (課名), Position Name (係名), Phone Number (電話番号), FAX, and Business Content (業務内容).

Table showing branch office information. Columns include Branch Name (出張所名), Location (所在地), Phone Number (電話番号), FAX, and Business Content (担当区間及び所掌事務).

高田河川国道事務所 〒943-0847 新潟県上越市新南町3番56号 電話 025-523-3136(代表) FAX 025-526-0411

情報は はこちらから

高田かわこく 検索

ホームページアドレス https://www.hrr.mit.go.jp/takada



国土交通省 高田河川国道事務所 https://x.com/mlit_takada

